

●2009年10月 総覧 モバイル版 過去記事 検索

- 2009/10/27 派兵訓辞：菅副首相
- 2009/10/26 天皇発言への政治介入：岡田外相
- 2009/10/25 気になる映画「仏陀再誕」
- 2009/10/24 国連左右にスジャータさん
- 2009/10/21 アフガン派兵，断固反対
- 2009/10/20 マオイスト・ポスター5種
- 2009/10/16 ヒンドゥー教からの改宗：インド
- 2009/10/15 ゴルカパトラHPは大丈夫か？
- 2009/10/14 俎上のネパール国家
- 2009/10/13 スジャータさん，副首相に
- 2009/10/12 ミスネパール，お宝動画
- 2009/10/08 南アジア学会の面白さ
- 2009/10/07 定額給付金はネパールへ
- 2009/10/06 Facebookの恐怖
- 2009/10/04 軍隊と大学と競馬
- 2009/10/02 国王，健在なり——人民評論

2009/10/27

[派兵訓辞：菅副首相](#)

谷川昌幸(C)

先日の岡田外相のPKO 5 原則見直し発言に続き、25日には菅副首相が海上自衛隊観艦式に出席し、「我が国の主体的判断と民主的統制の下、自衛隊が国際社会の平和と安定に貢献していくことを望む」と訓示した（朝日10/26）。

海外派兵は、民主党「青年将校」の基本政策といってもよい。

オバマ大統領は、理想主義的現実主義だが、民主党「青年将校」は現実主義偽装観念論である。

13:50 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [平和](#)

2009/10/26

[天皇発言への政治介入：岡田外相](#)

谷川昌幸(C)

岡田外相が、天皇の「お言葉」に政治介入した（朝日10/24）。国会開会式での天皇の「お言葉」を「陛下の思いが少しは入ったお言葉」にせよ、と要求したのだ。

天皇の国会召集は憲法の定める国事行為（第7条2）だが、国会開会式での「お言葉」の規定はなく、違憲の疑いがある。こんな事はやめたほうがよい。かりに「公的行為」として許容されるとしても、「お言葉」の内容は空疎にして形式的、政治的にまったく無意味なものでなければならない。

それなのに、岡田外相は、国権の最高機関たる国会において天皇が自分の意思を表明するよう要求した。憲法遵守を信条とし身上とする天皇に、憲法違反をすることを外務大臣として要求したのだ。

なんたる不忠者か。こんな危険な外相は直ちに罷免すべきだ。

13:34 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [ニュースと政治](#)

2009/10/25

[気になる映画「仏陀再誕」](#)

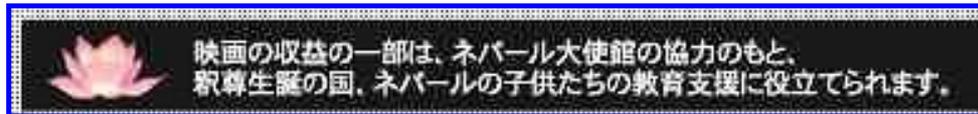
谷川昌幸(C)

巷ではいま映画「仏陀再誕」が話題になり、多くの人が観に行っているらしい。私はまだ観ていない。これが映画の公式HP――



鬱々状態だと、このキャッチコピーはこたえる。お釈迦様にすがりつき救いを求めたくなる。

右下には、「映画の収益の一部は、ネパール大使館の協力のもと、釈尊生誕の国、ネパールの子どもたちの教育支援に役立てられます」と表示されている。



左下には、「東映株式会社」「映画『仏陀再誕』ネパール教育支援プロジェクト」と表示される。



ここをクリックすると、プロジェクトHPに移り、この画面となる――



このブログには、プロジェクト・メンバーがヨンザン・タマン駐日大使と会見し、次のメッセージをいただいたことが紹介されている――

「～ネパール大使メッセージ～ 物質的な面のみならず、思想の面、考え方の面でも、もっと我が国を支援していただけることを希望しています。そして、人々を変えて行っていただきたいと思ひます。これはみなさんの使命でもありますし、我が国にとってとても役立つことなのです。」

そして、支援予定の学校の生徒や校長先生、村の人々の写真が紹介とともに掲載されている。プロジェクトのスローガンは――

「映画『仏陀再誕』で、ネパールの子どもたちに学校を！」

である。

これまで繰り返し述べてきたように、いまネパールは、仏教を前面に押し出し、国家再建を進めている。政治家も知識人も、こぞって仏教の平和主義や平等主義を礼賛している。

この映画「仏陀再誕」は、ネパールにおけるこの仏教再興の機運を見事に捉えた誠に素晴らしい企画である。とくにそれが「貧しい子どもたち」(プロジェクトHPより)のための教育支援を目的として高らかに掲げていることは、絶賛に値する。日本国民、こぞって鑑賞すべきだろう。

0:27 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [文化](#)

2009/10/24

[国連左右にスジャータさん](#)

谷川昌幸(C)

毎日ウツウツ、何もする気がしない。絶不調。こんな時は、ネアカの国のネアカ代表スジャータ副首相のご尊顔を拝すに限る。



(nepalnews.com)

左右にランドグレンUNMIN代表とピパー（パイパー？）国連現地調整官をしたがえ、スジャータ副首相はご満悦の様子。見ているだけで、スカッとする。

ネパールの政治は誰が動かしているのか、よくわからない。ネパール首相が何かしているようには見えないし、ヤダブ大統領には権限がない。

どうせ、その筋に操られているのなら、ネアカのスジャータさんを首相か大統領にしてあげてもよいのではないか。ミスネパールでは、ちょっと軽すぎるような気がする。

2009/10/21

[アフガン派兵, 断固反対](#)

谷川昌幸 (C)

自衛隊の扱いについては、以前にも書いたように、民主党の方が自民党よりもはるかに危険である。民主党は、朝日新聞などと共闘し、海外での「軍民協力」を積極的に推進するつもりなのだ。

事実、北沢防衛大臣は、昨日、自衛隊のアフガン派遣を示唆し、さらに今日、ゲーツ国防長官との会談でも、その可能性に言及した。

これは、オバマ政権の思うつぼだ。オバマ大統領は、核廃絶の理念を掲げつつ、通常兵器による覇権強化を図っている。しかもアメリカの犠牲は最小限にとどめる。それには、戦争のロボット化と諸外国の派兵増強が不可欠だ。したがって、オバマ政権としては、日本政府にも本格的な海外派兵を認めさせなければならないのである。

ゲーツ国防長官は、会見から想像するにかなり高圧的な人物で、今回の交渉でも日本側を相当脅したのではないと思われる。アメリカ側からすれば、沖縄で多少譲歩し、インド洋上給油中止を受け入れたとしても、自衛隊をアフガンに派兵させることが出来れば、戦略的には大成功なのだ。民主党は、朝日新聞にそそのかされ「軍民協力」に傾いているので、こわもてゲーツ国防長官にちょっと凄まれたら、おそらく抵抗は出来ないだろう。

その点、自民党はさすが保守本流、自衛隊海外派兵については、慎重であった。インド洋上給油は、自衛隊アフガン派兵拒否のための免罪符だという自民党の言い分には、それなりの合理性がある。保守本来のずるがしこさ、大人の現実主義とあってよい。

民主党には、そのような政治的深慮はない。「軍民協力」で名誉の戦死がでることへの恐れなどまったく感じられない。このままでは、社民党がいくら抵抗しても、ごまめの歯ぎしり、自衛隊はアフガンに進軍することになるだろう。

▼追加(2009.10.22)

岡田外相が、PKO 5原則の見直しを外務省に指示した(朝日10/22)。5原則を緩和し、自衛隊派兵を促進するつもりだ。民主党は軍事的平和貢献をマニフェストでも謳っており、これは党是。自民党より恐ろしい。こんな党に参院選で勝利させてはならない。

■民主党マニフェスト

54 世界の平和と繁栄を実現する

○わが国の主体的判断と民主的統制の下、国連の平和維持活動(PKO)等に参加して平和の構築に向けた役割を果たす。

○海上輸送の安全確保と国際貢献のため、適正な手続きで海賊対処のための活動を実施する。

■PKO 5原則(毎日10/21)

- (1)停戦合意が成立
- (2)紛争当事者が日本の参加に同意
- (3)中立的立場を厳守
- (4)基本方針が満たされない場合は撤収できる
- (5)武器使用は命の防護のための必要最小限に限る



20:15 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)
2009/10/16

[ヒンドゥー教からの改宗：インド](#)

谷川昌幸(C)

今日の朝日新聞記事「さらばヒンドゥー教・インド最下層で相次ぐ改宗」は、ネパールにとっても示唆的だ。筆者は武石英史郎記者。

記事によると、インドでは、下層カーストの仏教やキリスト教への改宗が増えている。

仏教への集団改宗を指導しているのは、佐々井秀嶺師。師自身が立ち会った改宗者がすでに300～400万人、全国だと1億人以上だという。途方もない数字だが、ネパールにおける仏教興隆の勢いをみても、十分考えられることだ。

キリスト教はまだ表に出にくく、かなり多くが「隠れキリシタン」となっているらしい。VHPによると、6千万人以上らしい。これもたいへんな数字だ。

では、この流れにどう対処するか？ RSS（民族奉仕団）やVHP（世界ヒンドゥー協会）が反撃に出てコミュナル紛争が激化するおそれがある。ネパールにとっても、他人事ではない。難しい問題だ。

19:52 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [宗教](#)
2009/10/15

[ゴルカパトラHPは大丈夫か？](#)

谷川昌幸(C)

この10日ほど前から、ゴルカパトラ(ライジングネパール)HPが変だ。読み込めなかったり、「危険、読むな」の警告が出たりする。私のパソコンがおかしいのかもしれないが、他のサイトは正常なので、やはりゴルカパトラHPの方に何か問題があるのだろう。

専門的なことはわからないが、ウィルス防止ソフトは通過している。ウィンドウズが「メモリーが……」とやらの警告を出し、IE8が「危険、読むな」の警告を出す。

ネパールのHP、とくに「テロリスト」系の中には、内容ではなく接続それ自体が危険なサイトがいくつかある。こちらはウィルスソフトが警告してくれる。

「テロリスト」系は、読みたいが、接続が怖い。ゴルカパトラは、読まなくてもどうということはないが、「読むな」といわれると、やはり気になる。こんな時、パソコン素人は、どうしたらよいのだろう。

23:11 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [コンピューターとインターネット](#)

2009/10/14

[俎上のネパール国家](#)

谷川昌幸(C)

ネパールの連邦制について、ちょっと調べている。国家の大まかな形についての合意すら出来なければ、そもそも新憲法などつくれるわけがない。現在は、「連邦共和国」なのに「州」も「邦」もないという、まったくもってみっともない状態だ。

現在のネパール国家は、実際にはまだ、シャハ＝ラナ体制が苦心惨憺して作り上げた単一制国家(unitary state)だ。これをまな板にのせ、「州」や「邦」にどう切り分けるか？

この図は、UNDP=CASU主催の「連邦制セミナー（2007年3月）」の報告書表紙だ。様々な民族・集団がネパール国家を俎上にのせ、どのように分割するか、思案している。よくできたイラストだ。

しかし、この図には、肝心のパトロンの姿が見えない。金を出し口を出し指図をし、ネパール国家をばらばらに切り分け、喰いやすくしてグローバル資本主義の食卓にのせようとしている親玉たちだ。

この親玉たちについては、1990年革命の頃、共産党系の人々がさかんに批判していた。いまでは、マオイストも含め、ネパール知識人たちはグローバル資本主義にはほとんど抵抗しなくなった。こんなことで、本当によいのだろうか？



国家を切り分ける諸民族

UNDP, *Federalism and State Restructuring in Nepal*, 2007

22:11 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)

2009/10/13

[スジャータさん, 副首相に](#)

谷川昌幸(C)

10月12日, MK.ネパール首相が, スジャータ外相を副首相に任命した。就任式は, あのヤダブ大統領が執り行い, 「民選国王」の役割を見事果たされた。スジャータさんは, 第二副首相かもしれないが(第一はMJFのガッチャダル氏), ご機嫌で, 首相支持を約束した。

この副首相人事は, コングレス党首にして実の父親のギリジャ氏が党に正式に諮ることなく強引に進めたものらしく, RC.ポウデル副党首や若手指導者のガガン・タパ氏らが猛反発, 党分裂にさえなりかねない状況だ。

MK.ネパール首相の評判は当初は散々だったが, さすがネパールの政治家, 機を見るに敏だ。ライバルのNCを分裂させ, マデシの支持を得, そしてマオイスト党首プラチャンダ氏は当日(12日)朝, またまた中国外遊に出掛けてしまった。この大変なとき, 国を留守にし, 党首が「遊び」回っているようでは, マオイストも強硬には反対しにくいだろう。

ネパールの首相は1年もてば御の字だ。この調子では, ネパール首相は平均以上の実績を残すことになるかもしれない。



(Nepalnews.com, 12 Oct)

23:16 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [ニュースと政治](#)

2009/10/12

[ミスネパール, お宝動画](#)

谷川昌幸(C)

「ミスネパール2009」の隠し撮り(と思われる)お宝動画が、ヒマラヤンタイムズに掲載されている。約10分。このイベントは別の新聞社が応援していたのではなかったかな？



[>>>クリック再生](#)

▼参照

- 2009/09/25 [ミスネパール2009を容認したマオイスト](#)
 - 2009/08/13 [マオイスト諸君, ミスコンを粉碎せよ](#)
 - 2008/08/23 [ミスコンか被抑圧女性解放か](#)
 - 2008/08/14 [クマリとミスコン: マオイストは本物か?](#)
- 9:48 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [文化](#)
2009/10/08

[南アジア学会の面白さ](#)

谷川昌幸(C)

ネパール研究については、いつまでも趣味意識が抜けず、南アジア学会に入ったのも昨年のこと。今年の大会は、北九州市立大学であり、参加してみたら、さすが多様性の南アジア、専門家の発表はそれぞれ個性的で面白かった。

たとえば、最後の「全体シンポジウム」のコメンテーターであった長崎暢子氏は、次のような質問を受けたことがある、と紹介された。

非暴力で独立を達成したインドにはイギリスの軍事基地は残っていないのに、(敗戦後)アメリカ占領から独立した日本には米軍基地が残っている。なぜか？

不意を突かれ、ハッとした。これは、いったいどう考えたらよいのだろうか？

■[第22回大会プログラム \(pdf\)](#)

21:36 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [文化](#)
2009/10/07

[定額給付金はネパールへ](#)

谷川昌幸(C)

定額給付金12000円を受け取った。

このような国民を愚弄するような政策に応じるのは潔しとしないが、麻生政権も崩壊したことだし、これを受け取り、全額をNGOに寄付し、国内ではなくネパールで有意義に使用してもらうことにした。内需拡大にも、地元商店街の活性化にも、まったく寄与しないが、せめてもの抵抗である。

それにしても、この無能無策な給付金バラマキのため経費がいくらかかったのだろう。国民のモラルを劣化させるだけのムダ使いの見本である。

18:44 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [民主主義](#)

2009/10/06

[Facebookの恐怖](#)

谷川昌幸(C)

Facebookは、いったん登録したら、個人情報の完全削除は素人にはまず不可能だ。

半年前、知人に誘われ登録したとたん、Facebookの危険性に気づき、個人情報を削除しようとした。しかし、どうしても完全削除は出来ない。しかも、パソコンを立ち上げたら（あるいはIEを使用したら）、自動的にFacebookに接続し、情報を盗られている。他の全サイトからサインアウトしても、Facebookだけはサインイン状態で残っている。マイクロソフトとググルではないか？悪質なウィルスと同じだ。

これから、この種の「ソフト全体主義」ソフトが増え、個人情報をひそかに盗み取られることが多くなるであろう。ネット切断して、ヒマラヤ山中にこもるより仕方あるまい。

Facebookの完全削除方法をご存じの方、ぜひお教え下さい。

▼Facebookの登録を解除すると、次のような通知がくる。

「こんにちは、○○○○さん。Facebookアカウントが停止されました。元のログイン用メールアドレスとパスワードを使ってログインすると、いつでも利用を再開できます。再開後は以前と同様にサイトをご利用いただけます。よろしく願いいたします。Facebookチーム」

そして、解除したアドレスでアクセスすると、個人情報はちゃんと保存されていて、次のような返事がくる。

「[aaaa@bbb.com](#)で登録されたFacebookアカウントが再開されました。アカウントを復活させた覚えがない場合は、ヘルプセンターをご覧ください。よろしく願いいたします。Facebookチーム」

■Okanoさんという人の回答がネット上にありました。たしかこれもやったはずなのだが、もう一度やってみます。プロフィールはすでに全部書き換え、アドレスはでたらめ、年齢は1900年生まれ108歳、ということになっていますが。

「かつて、Facebookのアカウントは[停止できるけれども抹消できない](#)と書いたことがあります。現在では抹消もできるようになっているようです。ただし、設定画面にある"deactivate"は相変わらず一時停止で、deactivateしても再度ログインすればいつでもアカウントは再開されます。本当にアカウントを抹消したければ、Facebookにログインした後でhttp://www.facebook.com/help/contact.php?show_form=delete_accountにアクセスして"Submit" ボタンをクリック

します。その後、パスワード等を入力して手続きが完了すると、14日後にアカウントが抹消されるということです。」

9:20 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [コンピューターとインターネット](#)

2009/10/04

[軍隊と大学と競馬](#)

谷川昌幸(C)

南アジア学会に参加するため、北九州市立大学に行った。北方キャンパスは美しく、学会も面白かったが、それよりも何よりも度肝を抜かれたのが、このキャンパスの絶妙な立地だ。なんと陸上自衛隊小倉駐屯地と小倉競馬場にサンドウィッチのように挟まれているのだ。

小倉駐屯地の自衛隊は、陸自だから、戦車くらいは持っている。それは当然だが、驚くのは、その戦車をまるで見せびらかすかのように、大学キャンパスの向かいの歩道そばに鎮座させていることだ。これを見て、私はギョッとし、思わずキャンパス内に後ずさりしてしまった。

政治学をやっているくせに、戦車ごときを恐れてはイカンと、態勢を立て直し、愛用の300万画素カメラを取り出し、素早く数枚撮影し、一目散にキャンパス内に逃げ込んだ。(下記写真はすべて10月4日撮影)

しかし、こんなことをする必要は全くないことに、すぐ気がついた。陸自はお向かいの大学に通う優秀な男女学生向けに隊員募集広告を出しており、戦車はその宣伝のために意図的にそこに鎮座させてあるようなのだ。

しかも、この大学はお隣に駐屯する陸自とよい関係にあるらしい。校歌碑の隣の大学掲示板には、駐屯地の宣伝ポスターが堂々と掲示してある。時代は変わった。有名大学が、大学として軍隊を応援する。そのような時代になったのだ。

競馬場は、もちろんそのようなキナ臭いものではない。日本庶民の生活文化や地方財政の生きた研究対象として、これが学問的にも極めて重要なものであることはいうまでもない。



小倉競馬場・北九州市立大学・陸自小倉駐屯地(Google)／陸自小倉駐屯地看板



駐屯地・正門ゲート



歩道そばに鎮座する戦車(特車) / 戦車と自衛官募集広告



上図の戦車付近(Google)。戦車などの軍機は

消されている。



大学掲示板と大学校歌碑



上掲大学掲示板内の自衛隊宣伝ポスター

22:46 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [教育](#)
2009/10/02

[国王，健在なり——人民評論](#)

谷川昌幸(C)

われらが「人民評論」では、国王はまだまだ健在だ。同紙によれば、「元国王」ではなく、「国王ギャネンドラ陛下」ご自身が、ダサイン祭の祝福を受けに訪れた無数の人々にティカを授けられた。「ヒンズー教大祭を祝い、余は内外のネパール全人民の幸福と平和と繁栄をねがう。」(People's Review, 29 Sep)

一方、ヤダブ大統領も、ティカを授けたが、祝福を受けに来たのは高官などごく少数であった。

また、MK.ネパール首相は、訪米日程を切り上げて帰国し、父からティカを受けたが、首相自身は一般人民にティカを授けることはしなかった。ネパールが世俗国家になったからだ。

このように、「人民評論」は、英字紙の中では抜群に個性的で鋭い。世俗国家になつたくせに、大統領がダサイン祭の宗教行為をしていると批判しつつ、そんなものを受けに行く人民はごくわ

ずかだった、と皮肉る。

また、世俗国家の首相にして共産主義者のMK.ネパール氏が、公務をほっぽり出して帰国し父からティカを受けながらも、人民にはティカを授けられなかった、その悲喜劇的状况をきちんと報道している。

他の体制順応大手メディアよりも、こんな異端メディアの方が、ときには問題の所在を鋭く突くことがある。その意味で、「人民評論」は異彩を放っており、断然面白い。



ティカを授け祝福する「ギャネンドラ国王」(People's Review, 28 Sep)
10:24 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [国王](#)